

と玉の文化 珠の石

日本海を行き交う弥生の宝石 「碧玉」アクセサリ

問い合わせ

観光交流課

☎ 24・8076

火山活動が生み出した バラエティ豊かな宝石群

今からおよそ1700万年前、日本海側では火山活動が活発となり、霊峰白山、そして火山灰と火山礫が堆積した日本海グリーンタフ（緑色凝灰岩地帯）が形成されました。また、火山活動による熱水は金・銅などの鉱床や瑪瑙、水晶、オパール、碧玉などの宝石、

九谷焼に欠かせない花坂陶石など様々な鉱物を生み出しました。グリーンタフ地帯は日本海側の広域に広がりますが、良質の碧玉を採取できるのは小松を含め全国にわずか4カ所のみ。ここから小松の石の物語は始まります。

小松のものづくりの原点 「碧玉」アクセサリ

原始から古代にかけ、小松は東西文化交流の結節点であり、大陸の進んだ技術や知識がもたらされました。2千年前の弥生時代には、自然や生命、権力の象徴としての「緑」の玉が求められ、小松の弥生人は、那谷・菩提・滝ヶ原で産出される碧玉を八日市地方の集落まで運び「玉づくり」を行っていました。硬い碧玉を少しずつ丸くし、直径わずか2ミリの円柱にまで磨き上げ、更に太さ0.7ミリの極細に仕上げた瑪瑙などの石針で、碧玉の中心部に1ミリの孔を開け管玉を作り上げました。

現代でも復刻が困難な管玉づくり



管玉

直径0.7ミリの石針

直径2ミリの円柱に直径1ミリの孔を開けるといふ驚異的な技術

の驚異的な加工技術は当時の日本最先端と言えます。首飾りや頭飾りのアクセサリとして、日本海交易を経て九州に届けられ、弥生の王達を魅了しました。この原石を磨き上げる碧玉の技術こそが小松のものづくりのルーツであり、小松人の哲学として現在まで受け継がれています。

ここで見れる！
八日市地方遺跡から発掘された管玉や玉づくり工程品は、国の重要文化財に指定され、埋蔵文化財センターやサイエンスヒルズこまつで見学できます。

こまつ遺産アドバイザー委員会 公開トークセッションを開催

参加無料

小松の魅力国内外へ発信するため、有識者を招いて市長とのトークセッションを開催。
黒本和憲(コマツ取締役)
清丸恵三郎(歴思書院編集プロデューサー)
見並陽一(日本観光振興協会理事長)
望月照彦(多摩大学大学院客員教授) ※敬称略
とき 2月16日(火)13時30分~16時
ところ こまつ芸術劇場うらら小ホール

こまつの碧玉を守ろう！

那谷・菩提・滝ヶ原では現在も碧玉などを見ることができます。この貴重な財産を守るため、地元3町の住民がパトリール隊を結成しました。



平成27年度

新有権者感想文

新有権者感想文は、選挙を通して地方自治や国政に参加することから募集したものです。

小松市選挙管理委員会 総務課内

☎ 24・8151

最優秀賞

私の誓い

こまつ看護学校 山口彩海さん



私は、今年十九歳になりました。選挙権が与えられるのは、まだまだ先の話だと思っていました。しかし、七十年ぶりに公職選挙法の改正が行われたことにより、選挙で投票できる年齢が二十歳から十八歳に引き下げられ、私も有権者になる予定です。そして、来夏の参議院議員通常選挙では、十八歳、十九歳の約二百四十万人が新たな有権者として投票することになります。

正直、国政や地方自治に対する知識がありません。そんな私が有権者となってもいいのでしょうか。しかし、私たちに選挙権が与えられる以上、投票に行くことは権利だと思ふので、どうすれば私たち新有

権者が不安もなく、ある程度の知識を持った状態で選挙に行くことができるのかを考えていきたいです。

最近ニュースで見るのは、国会での野次合戦です。この国会議員の方たちを選挙で選んだのは、私たちが権者です。つまり、私たちが持つこととなる選挙権の一票はとても重く、それと同時に、大きな不安を感じています。また、二十歳になり初めて選挙に行くことで大人になったと感じる人もいる、と聞きました。それが二年早まるため、自分の気持ちとは相反して、有権者という肩書きばかりが独り歩きし、大人になりきれない今の自分が大人とみなされ、ギャップを生じさせてしまうのではないかと考えます。

十八歳ということは、高校三年生です。しかし、義務教育ではないため、高校に在学していない十八歳の人も多くいます。そのため、日本の政治について、選挙の仕組みについて、義務教育中に学んでいくことが大切です。実際に、十八歳に選挙権年齢が引き下げられたことで、全国的に小・中・高校生が模擬選挙を体験するという取り組みが行われています。石川県内でも小学校で同様の取り組み

みがあったとニュースで知りました。さらに、今回、公職選挙法の改正が行われた理由を調べてみると、若い世代を含めた多種多様な意見を反映するため、というものがありません。例えば、グループで討論する時間を設けて、同世代の友人たちの意見を聞き、自分も真剣に考えることで、自分の意見を確立させ、その意見を反映してくれる人に投票するという行動がとれるのではないかと考えます。そのため、学校教育で、政治や選挙を身近に感じさせる必要があります。

そして、学校教育だけでなく、家庭における役割も重要だと思います。最近では、選挙が行われるたびに投票率が低下しています。まずは、親が選挙に行く姿を子どもに見せることが大切です。子どもの頃から選挙に行くことが当たり前、という意識を植え付けることも親の責任だと思います。また、若者の政治離れに歯止めをかけるためには、自宅で政治について話すこと、新聞を読むように促すことなど、親の協力が不可欠だと感じます。

このように、来夏の参議院議員通常選挙までに私たちが行える対策は

そのほかの入賞者の皆さん(敬称略)

●優秀賞

十八歳選挙権に対する自分の考え 九内将志(航空自衛隊小松基地)
新有権者になって 黒田禎敬(小松短期大学)

●小松ライオンズクラブ会長賞

「有権者となって」 佐久間雷起(航空自衛隊小松基地)
選挙権を得て 荒井未来(航空自衛隊小松基地)
最後の世代として 宮本周弥(小松市消防本部)
新有権者になって 曾我好花(コマニー株式会社)
有権者としての意思決定と権利への責任 打田葵(小松大谷高校)

多くあります。日常生活の中で、政治の知識を深めていくために、毎日新聞を読む、友人とも新聞の話題について話すなど、小さなことから始めていきたいです。

自分が有権者であるという認識、投票することが社会への参加の第一歩である、ということをお忘れず、高齢化が進む中で求められている若い力を発揮できるよう努力していくことが、私の誓いです。